

令和6年度第3回京都市市民参加推進フォーラム会議 次第

日時：令和7年1月28日（火）午前10時～正午
場所：京都市役所本庁舎4階 正庁の間

1 開会

2 委員紹介

資料1：京都市市民参加推進フォーラム委員名簿

3 議題

(1) 第3期京都市市民参加推進計画に対する評価について

資料2：各委員による評価結果

資料3：令和7年度実施の市民アンケート案

(2) 次期京都市市民参加推進計画の方向性について（資料4）

(3) 市民参加の裾野拡大の取組について

資料5：京都奏和高校「Make you smile 探究成果発表交流会」の開催結果

資料6：みんなでつくる京都交流会の開催結果（開催概要、アンケート結果等）

4 報告事項

(1) 市民参加に関する主な新しい事業について（資料7）

(2) 新たに設置された附属機関等について（資料8）



氏 名 (○：新任)	肩 書 等	委嘱期間
荒木 勇輝	特定非営利活動法人寺子屋プロジェクト（Tera school）代表	R2.4.1～R8.3.31
乾 明紀	京都橘大学経済学部経済学科教授	H31.4.1～R7.3.31
○ 岡田 祐樹	京都青年会議所副理事長	R7.1.1～R8.12.31
白水 育世	一般社団法人マチノミカタ理事	R4.4.1～R8.3.31
竹田 明子	公益財団法人京都市ユースサービス協会ケア事業担当統括	R6.8.1～R8.3.31
千葉 晃央	京都光華女子大学看護福祉リハビリテーション学部講師	R6.8.1～R8.3.31
並木 州太郎	龍谷大学ユネスコソーシャルビジネスリサーチセンター研究員	R3.4.1～R7.3.31
西澤 純	市民公募委員	R6.4.1～R8.3.31
平田 杏薫	市民公募委員	R5.4.1～R7.3.31
平野 哲広	京都信用金庫QUESTION館長	R6.8.1～R8.3.31
松井 順子	藤城学区自治連合会副会長	R5.6.1～R7.5.31
三宅 桃花	市民公募委員	R5.4.1～R7.3.31
村田 和代	龍谷大学政策学部部長	R3.4.1～R7.3.31
森実 賢広	京都新聞社論説委員	R3.6.1～R7.5.31
森田 明男	市民公募委員	R6.4.1～R8.3.31

1 現行計画の評価結果の考え方（案）

(1) 評価フェーズ

- ・ 個人ワーク ⇒ グループ議論 ⇒ 全体議論（現在）の順で評価を実施。
- ・ 今後、フォーラム会議での議論、追加の情報提供に対する意見、4月に実施予定の市民アンケートの結果を受けて、5月頃に最終版とする。
ただし、並行して、その時点の評価結果を踏まえて、次期計画策定に向けた議論を実施。

(2) 評価結果

- ・ 各施策の“できている点”、“できていない点”の評価結果は、次期計画における「重視する視点」や「施策」等を検討するための基礎資料とする。
- ・ また、次期計画の各施策に関連する事業は、“できている点”及び“できていない点”を踏まえて、検討することとする。

次期市民参加推進計画策定に係る作業スケジュール

項目		作業内容		
		第3回会議（1/28）	2月	第4回会議（3/25）
第3期計画評価		- 各施策の評価に係る全体議論 - 追加の情報提供	追加の情報提供に対する意見出し（～2/28）	第3回会議、追加の意見を踏まえた評価の共有
アンケート		アンケート項目（案）の検討・議論		アンケート項目の確定
次期計画	現状と課題、社会情勢の変化	内容の検討・議論		第3回会議を踏まえた現状の課題等（案）の議論
	重視する視点のキーワード	内容の検討・議論（追加すべきキーワードの確認）	追加すべきキーワードの募集（～2/28）	第3回会議、追加キーワードを踏まえた重視する視点（案）の議論
	施策の整理	内容の検討・議論		第3回会議、重視する視点を踏まえた施策（案）の議論

提言書
及び
計画
の議論

第3期市民参加推進計画の評価について

2 評価結果の意見例①

項目	分類	評価結果
情報発信	できている点	・ 情報発信を行うための媒体（掲示、紙、webサイト、SNS）は揃っており、ビュー数等から一定程度到達できている。また、継続的な情報発信がされている。 ・ ポータルサイト「みんなでつくる京都」では、レビュー数も大幅に増加しており、市民が必要としての情報を発信できている。 ・ パブリックコメントを集めて反映するにとどまらず、市としての考え方等を公表しており、未反映の意見含め、参加の手ごたえを感じられるためのプロセスがある。
	できていない点	・ 情報発信を行っているwebサイト等は充実しているが、アクセスしやすいとは言えない。アクセスするための導線が必要。 ・ 外国籍市民その他の情報弱者への浸透度を図る指標がない。
対話	できている点	・ 対話の場として、市民協働ファシリテーター養成数、派遣数、出前トーク参加者数等から、着実に取り組んでいる。 ・ 多様な主体との対話として、まちづくりカフェで評価すると一定成果がある。 ・ 職員に対する研修を通じて、「市民協働ファシリテーター」を育成、派遣し、市民との対話の場の創出に寄与した。
	できていない点	・ 対話・連携をどう展開するか。また成果・深まりをどう見える化し、評価するか検討が必要。 ・ 市民協働ファシリテーターの在籍数や実働数も評価対象としたい。 ・ 対話の場で言っぱなし、聞きっぱなしではなく、どう施策等に生かされたのか、具体的に示せないか。

第3期市民参加推進計画の評価について

2 評価結果の意見例②

項目	分類	評価結果
参加手法	できている点	・ 附属機関等の市民公募委員制度において、大半の審議会に市民公募委員が参加している。 ・ 障害がある方が参加しやすいよう工夫されている事業がある。 ・ 対面開催とオンライン開催の両方の取組があり、参加しやすくなっている。
	できていない点	・ パブリックコメントは、審議会で出された結論だけでなく、その過程で募集することが望ましい。 ・ 寄付やクラファンの周知理解は広がっているため、アクションに結びついてるかの検証及びアクションの促進が必要。
若年層	できている点	・ 高校生を対象とした社会課題への取組機会が提供されている。 ・ 大学生の活動支援や地域活動への参加の機会が生まれている。 ・ 附属機関等に青少年が参加できている。
	できていない点	・ 小中高校生の参加機会が限定的である。中学生の行政・まちづくりについて学習・実践機会が限られている。 ・ 社会人、子育て世代へのアプローチが、公民連携や附属機関への参加等で十分か検討が必要。 ・ 出前トーク等の機会に、若い世代などに実際に京都市のwebページにアクセスしてもらうなど、情報の調べ方や読み取り方などを理解してもらう取組が必要。

第3期市民参加推進計画の評価について

2 評価結果の意見例③

項目	分類	評価結果
多様な主体	できている点	・「まちづくり・お宝バンク」の提案数は増加しており、市民活動を推進する取組ができている。 ・「KYOTO CITY OPEN LABO」の提案数、取組数が増加し、企業に所属する市民がまちづくりに関わるきっかけができている。 ・世界的観光都市である京都ゆえの、市内での移動の問題（オーバーツーリズム対策など）にも様々な事業体が連携して活動する働きかけを行っている。
	できていない点	・多様な主体に向けての共創のまちづくりの評価を、まちづくりカフェのみで行ってよいのか検討が必要。 ・お宝バンクや公民連携などに関心のある層同士のエンパワメント（人と人との関わり（関係性））の機会づくりが必要。 ・まちづくり・お宝バンクの提案件数は対前年で半減している。
SDGs	できている点	・「きょうとSDGsネットワーク」など、民間事業者を巻き込んで公民連携の取り組みを推進できている。 ・きょうとSDGsネットワークへの登録件数も増加している。
	できていない点	・SDGs関連の取組とまちづくり活動の橋渡しが不十分。市民の意識調査では、まちづくり活動が盛り上がっているという実感はない。 ・SDGs関連の取組においても、情報を得る力、エントリーする力、エントリーを勝ち残る力がある人や団体が評価・優遇され、実力主義・成果主義の傾向が生まれているのではないかと。

第3期市民参加推進計画の評価について

2 評価結果の意見例④

項目	分類	評価結果
地域	できている点	・「まちづくり・お宝バンクの実施」については、Webページも見やすく、R7末累計500以上に到達すると思われ、地域活動への住民の参加促進に繋がると思われる。
	できていない点	・ 既存のまちづくり組織（自治会、まちづくり委員会等）の活動の若返り支援ができるとなおよい。 ・ 自治会、町内会、PTAといった市民にとって身近な地域活動への参加の促進や内容の充実を図る取組も必要。
その他	できている点	・ まちづくり・お宝バンク、KYOTO CITY OPEN LABOの事業などの各事業でアドバイザーやコーディネーター役が配置され、取組推進に向けた、相談助言・進管理や・連携調整・ネットワーク形成が行われている。 ・ 企業の連携協定締結、クラファンを使用する際の支援など、活動を支え合う仕組みの構築はできている。
	できていない点	・ まちづくりカフェなど、各区、各地区、各事業で同時多発的に大量に行っているため、その全体と各取組での実態を知っている人はいない。 ・ まちづくり活動参加後、中長期的な視点で、意識面や行動面でどう変化したか、参加の継続状況はどうか把握できていない。

令和7年度実施の市民アンケート案について（第2回会議資料再掲）

○ 市民アンケート

① 目的

市民の市政やまちづくり活動への意識や参加状況等を把握し、「次期京都市市民参加推進計画」改定の基礎資料とする。

② 設問数

20問程度、うち既存の項目13問

→ 計画の評価への使用など、**新たな設問は10問程度**

③ 調査時期

令和7年4月中旬（1週間程度）

④ 調査対象

市民1,000人（市内在住、京都市民と同じ年齢構成／民間調査会社のインターネットモニター）

⑤ 調査方法

パソコン、スマートフォン等での回答

注） 本件に係る予算が成立した場合のみアンケートを実施する。

⇒ **第3回フォーラム会議（1月）：アンケート項目を検討・議論**
第4回フォーラム会議（3月）：アンケート項目の確定

令和7年度実施の市民アンケート案について

＜参考 アンケートの調査対象者数（サンプルサイズ）について＞

- 以下の条件で、計算式を用いて調査対象者数（サンプルサイズ）を計算すると、
 サンプリング誤差 5 %の場合 約 384 人
 3 %の場合 約 1,307 人
- ※ 京都市民を145万3,956人（令和3年10月1日時点）とした。
- ※ 市町村が実施するアンケート調査では5%、政府などが行う世論調査では3%の数値がよく使われる。

⇒ 調査対象者1,000人の場合、サンプリング誤差が3%～5%といえる。

【参考】アンケート調査のサンプル数について

【サンプル数の設定】

調査の対象地域及び対象者は、調査の精度、調査に要する時間・経費などを勘案して設定します。調査対象全員に実施する調査を「全数調査」、調査対象の一部に対して行う調査を「標本調査」と呼びます。調査の規模が大きくなればなるほど精度は高まりますが調査費用はそれに応じて高くなります。両者はトレードオフの関係にありますので、安易に大規模・高コストの調査を行うことは避け、調査の企画・立案段階で、「どのようなアウトプットが必要か？」などをしっかりと考えることが重要です。

そのため、具体的にどれだけのサンプル数が必要になるのかについては、事前に確認しておきましょう。サンプル数の検討に当たっては、以下の公式が用いられることが多いです。

- ・ ϵ ：許容できるサンプリングの誤差（市町村が実施するアンケート調査などでは5%、政府などが行う世論調査などでは3%などの数値がよく使われます。値が小さくなるほど誤差が小さく、精度が高くなります）
- ・ K ：正規分布の性質から与えられる値（ ϵ を5%とした場合、 $K=1.96$ とします）
- ・ P ：想定する調査結果（予測が困難な場合は、0.5とすると最も安全なサンプル数を確保できます）
- ・ N ：調査の対象となるものの全体の人数（母集団の大きさ）
- ・ n ：必要とされるサンプル数

＜サンプル数 n の算定式＞

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\epsilon}{K}\right)^2 \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

＜出典＞地域公共交通計画等の作成と運用の手引き 詳細編
第3版（令和4年3月）
国土交通省

令和7年度実施の市民アンケート案について

◆ アンケート全体概要

質問内容	問
参加経験	
参加の有無	問 1、問 8
参加した制度／事業／取組	
参加の理由	
参加した理由	問 2、問 9
参加しなかった理由	問 5、問 1 3
参加していない市民の意識	
参加してみたい制度、活動等	問 3、問 1 2
課題を感じた時の参加意識	問 4
参加の形	
よいと思う市政参加の形	問 6

※ 下線は、新規の設問

質問内容	問
京都市がすべきこと	
参加の活性化のためすべきこと	問 7、問 1 4
対話を進めるためすべきこと	問 1 6
施設	
まちづくり活動に使用した施設	問 1 0
参加のきっかけ	
参加のきっかけとなった市の制度	問 1 1
参加の情報を得た媒体	問 1 5
新型コロナウイルス	
参加への新型コロナの影響	問 1 7、問 1 8

設問数 全 1 8 問

＜内訳＞ 既存 1 3 問
新規 5 問

■ 問 1【継続】

京都市では、市民の皆さんの意見や想いを市政に反映していくため、次のような「市政参加」の制度を用意しています。この中であなたが参加・利用・回答されたことがあるか、またご存知かについて、取組ごとに当てはまるものを1つずつお選びください。

※ 1～9の選択肢について、それぞれ（参加・利用・回答したことがある／参加・利用・回答したことはないが制度があることは知っている／知らない）から、あてはまるものを1つ選ぶ。

【選択肢】

- 1 市が実施する各種のアンケート調査で意見を伝える
- 2 提案、アイデア、名称・愛称等の募集に提案する。
- 3 パブリック・コメント（市民意見募集）で意見を伝える。
- 4 市のモニター制度に協力する。
- 5 ワークショップで行政と意見交換する。
- 6 審議会等の公募委員へ応募する。
- 7 審議会等を傍聴し、市の取組の議論の状況を把握する。
- 8 市長への手紙で意見を伝える。

■ 問 2 【継続】

【問 1 で「参加・利用・回答したことがある」と回答された方にお尋ねします。】

あなたが参加・利用・回答した理由は何ですか。次の中からあてはまるものを 3 つまでお選びください。
(⇒次は問 6 に進んで下さい。)

【選択肢】

- 1 テーマに興味関心があったから
- 2 居住や通勤・通学など生活の地域に関わる課題だったから
- 3 公共のため、みんなのためになると思ったから
- 4 友人や知人に誘われたから
- 5 主催者や関係者に依頼されたから
- 6 知識や学びが得られるから
- 7 人とのつながりが得られるから
- 8 報酬（謝礼、景品、賞品等）が得られるから
- 9 市に対して意見や提案があったから
- 10 その他（ ）

■問3【新規】

【問1ですべて「参加したことはないが制度があることは知っている」又は「知らない」と回答された方にお尋ねします。】

京都市では市政参加の方法として、次のものがあります。あなたの関心のある施策や事業に関し、市政参加の機会・時間があつた場合、どのような市政参加の方法であれば参加いただけますか。次の中からあてはまるものを3つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 市が実施する各種のアンケート調査で意見を伝える。
- 2 提案、アイデア、名称・愛称等の募集に提案する。
- 3 パブリック・コメント（市民意見募集）で意見を伝える。
- 4 市のモニター制度に協力する。
- 5 ワークショップで行政と意見交換する。
- 6 審議会等の公募委員へ応募する。
- 7 審議会等を傍聴し、市の取組の議論の状況を把握する。
- 8 市長への手紙で意見を伝える。

■問4【継続】

【問1ですべて「参加したことはないが制度があることは知っている」又は「知らない」と回答された方にお尋ねします。】

今後、あなたが市政に関連して何らかの課題を感じているときに、市政に参加できるような機会があれば、参加したいと思いますか。次の中から1つをお選びください。

【選択肢】

- 1 ぜひ参加したい
- 2 可能であれば参加したい
- 3 あまり参加したいと思わない
- 4 参加したくない

■ 問 5 【継続】

【問 5 で 3 又は 4 と回答された方にお尋ねします。】

あなたが「あまり参加したいと思わない」「参加したくない」主な理由は何ですか。次の中からあてはまるものを 3 つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 参加する時間がないから
- 2 参加する時間が合わないから
- 3 一緒に参加する仲間がいないから
- 4 市政に興味がないから
- 5 テーマに興味・関心がないから
- 6 精神的、肉体的に負担がかかるから
- 7 課題やテーマの内容が難しいから
- 8 参加しても市政に反映される実感がわからないから
- 9 議会があるから市民が直接市政に関わる必要はないから
- 10 特に理由はない
- 11 その他（ ）

■ 問 6 【継続】

【問 6 以降は全ての方にお尋ねします。】

あなたは、市政に対する市民の関わり方は、どのような形がよいと思いますか。次の中から 1 つをお選びください。

【選択肢】

- 1 直接、意見や考えを提案したり、協働したりする方がよい
- 2 市民の代表として選ばれた議員を通じて意見を反映させる方がよい
- 3 町内会や自治会の役員、様々な地域活動団体等の代表者を通じて意見を反映させる方がよい
- 4 市政は行政に任せておけばよい
- 5 その他（ ）
- 6 よくわからない

■問7【継続】

市民の皆さんが市政により一層参加しやすくなるために、京都市がすべきことは何だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 市政に関する情報をわかりやすく発信する
- 2 市政参加したい市民同士の交流の場を提供する
- 3 市政参加の取組の結果や施策・事業への反映をしっかりと伝える
- 4 政策づくり、計画策定など市政の様々な段階でより多くの参加の機会をつくる
- 5 市民に身近な課題についての市政への参加の機会を充実させる
- 6 社会全体の課題や全市的な課題についての参加機会を充実させる
- 7 子ども、大学生等若い世代の方が参加できる機会を充実させる
- 8 市政への参加の仕組みのユニバーサルデザイン化を進める
- 9 参加しやすい時間や場所に設定する
 - * 参加しやすい時間帯を以下から選択してください。
(平日又は休日(土日曜、祝日)の午前、午後、夕方、夜間)
- 10 インターネット、SNSなどを活用して、意見や提案ができる機会を充実させる
- 11 その他 ()

■ 問 8 【継続】

あなたがこれまでに参加されたことがある「まちづくり活動」について、次の中からあてはまるものを全てお選びください。また、その中から最も重点的に取り組んでいる活動を1つお選びください。活動に参加した地域は、京都市内外を問いません。

【選択肢】

- 1 地域の清掃活動や、個人として参加するボランティアなど（個人としての活動）
- 2 寄付、クラウドファンディングなど、金銭的な支援（個人としての活動）
- 3 自治会・町内会などの活動
- 4 P T A等学校関係組織の地域活動
- 5 大学のゼミ、サークル、学生団体等の地域活動
- 6 特定非営利活動法人（N P O法人）としての活動
- 7 N P O法人以外の法人格をもった非営利の団体（一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人）としての活動
- 8 主たる業務として地域課題に取り組む企業（ソーシャルビジネス等）としての活動
- 9 営利企業を通じた地域活動（C S R活動、企業ボランティアなど）
- 10 各種経済団体（商工会、会議所、経営者団体、業種別組合・協会など）を通じた活動
- 11 その他各種任意団体等を通じた活動
- 12 その他の形態の活動（ ）
- 13 参加したことがない

■ 問 9 【新規】

【問 8 で選択肢 1 ～12 と回答された方にお尋ねします。】

あなたが「まちづくり活動」に参加した理由は何ですか。次の中からあてはまるものを 3 つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 テーマに興味関心があったから
- 2 居住や通勤・通学など生活の地域に関わる課題だったから
- 3 みんなのためになると思ったから
- 4 友人や知人に誘われたから
- 5 主催者や関係者に依頼されたから
- 6 知識や学びが得られるから
- 7 人とのつながりが得られるから
- 8 報酬（謝礼、景品、賞品等）が得られるから
- 9 その他（ ）

■問 1 0 【継続】

【問 8 で選択肢 1 ～12と回答された方にお尋ねします。】

市内にはまちづくり活動をする際に利用したり、相談したりできる様々な施設があります。これまでにまちづくり活動のために、利用されたことのある施設について、次の中からあてはまるものを全てお選びください。

【選択肢】

- 1 市役所（本庁）
- 2 区役所・支所（14箇所）
- 3 小学校・中学校
- 4 高校・大学等施設
- 5 地域の集会所、公民館、自治会館等
- 6 市民活動総合センター（下京区河原町通五条下る東側「ひと・まち交流館 京都」内）
- 7 いきいき市民活動センター（市内13か所）
- 8 福祉ボランティアセンター（下京区河原町通五条下る東側「ひと・まち交流館 京都」内）
- 9 景観・まちづくりセンター（下京区河原町通五条下る東側「ひと・まち交流館 京都」内）
- 10 青少年活動センター（市内7か所）
- 11 キャンパスプラザ京都（下京区西洞院通塩小路下る）
- 12 ウイングス京都（中京区東洞院通六角下る）
- 13 国際交流会館（左京区栗田口鳥居町）
- 14 その他の公共施設（ ）
- 15 お寺・神社等
- 16 民間のレンタルスペース等
- 17 その他（ ）

■ 問 1 1 【継続】

【問 8 で選択肢 1 ～12 と回答された方にお尋ねします。】

京都市では、まちづくり活動に取り組む皆さんに、活動のきっかけづくりや、活動される人々が出会い、繋がり、連携・協働するための支援、地域コミュニティの活動支援など様々な取組を行っています。以下に挙げた事業について、参加もしくは利用されたことがあるか、またご存知かについて、事業ごとに当てはまるものを 1 つずつお選びください。

【選択肢】

- 1 市政出前トーク（市民が聞きたいテーマについて市の担当職員が伺って、説明する制度）
- 2 まちづくりカフェ等の地域での交流事業
- 3 各区役所・支所における「まちづくり提案支援事業」
- 4 “みんなごと”のまちづくり推進事業（お宝バンク、市民サポーター派遣、活動進化プログラム（公開講座、交流会等））
- 5 各区・支所の「地域コミュニティ活性化に向けた地域活動支援制度」
- 6 地域コミュニティサポートセンター（地域コミュニティ活性化のための総合的な相談窓口）
- 7 各区・支所の「地域団体とNPO法人の連携促進事業」
- 8 輝く学生応援プロジェクト（まちの活性化につながる活動を行う学生を総合的にサポートする事業）
- 9 学まちコラボ事業（大学と地域との連携による取組を支援する事業）

■問 1 2【新規】

【問 8 で選択肢13と回答された方にお尋ねします。】

どのような「まちづくり活動」であれば参加したいと思いますか。次の中からあてはまるものを 3 つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 地域の清掃活動や、個人として参加するボランティアなど（個人としての活動）
- 2 寄付、クラウドファンディングなど、金銭的な支援（個人としての活動）
- 3 自治会・町内会などの活動
- 4 P T A等学校関係組織の地域活動
- 5 大学のゼミ、サークル、学生団体等の地域活動
- 6 法人格をもった非営利の団体（N P O法人、一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人）としての活動
- 7 主たる業務として地域課題に取り組む企業（ソーシャルビジネス等）としての活動
- 8 営利企業を通じた地域活動（C S R活動、企業ボランティアなど）
- 9 各種経済団体（商工会、会議所、経営者団体、業種別組合・協会など）を通じた活動
- 10 その他各種任意団体等を通じた活動
- 11 その他の形態の活動（ ）

■ 問 1 3 【継続】

【問 8 で選択肢13と回答された方にお尋ねします。】

あなたがまちづくり活動をされなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものを 3 つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 参加のきっかけがわからない、わかりにくいから
- 2 参加の方法がわからない、わかりにくいから
- 3 参加する時間がない、合わないから
- 4 一緒に参加する仲間がいない、少ないから
- 5 活動の場の敷居が高いから
- 6 肉体的に負担がかかるから
- 7 活動に伴う人付き合い、人間関係に不安があるから
- 8 経済的な余裕がないから
- 9 内容が難しいから
- 10 魅力ややりがいを感じられる活動がないから
- 11 まちづくりに興味がない・気が進まないから
- 12 その他（ ）

■ 問 1 4 【継続】

【問 1 4 以降は全ての方にお尋ねします。】

今後さらにまちづくり活動を活性化させるために京都市が行う取組として、あなたはどのようなことが大切だと思われますか。次の中からあてはまるものを3つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 活動に役立つ情報の提供を推進する
- 2 組織運営に関する相談事業を推進する
- 3 人的な補助（アドバイザー、コーディネーター派遣等）の取組を推進する
- 4 活動の拠点となる場所を増やす
- 5 活動への理解や参加を促すための広報を推進する
- 6 活動に必要な財政上の支援を推進する
- 7 活動を支える人材の育成を推進する
- 8 市職員とまちづくり活動を行う方（個人・団体）との連携・協働を推進する
- 9 まちづくり活動を行う方（個人・団体）同士の連携・協働を推進する
- 10 その他（ ）

■問 1 5 【継続】

京都市では、市政参加やまちづくり活動の情報を色々な媒体で発信しています。あなたがこれまで、市政参加やまちづくり活動の情報を得たり、見聞きしたりした媒体で、頻度の多いものを3つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 市民しんぶん
- 2 京都市の公式ホームページ（「京都市情報館」、「みんなでつくる京都」など）、公式ＳＮＳ（Twitter、Facebook、LINE）
- 3 市政広報板
- 4 区役所・支所等の窓口、公共施設の配架チラシ等
- 5 市バス・地下鉄のポスター等の掲示物
- 6 ラジオ・テレビでの市広報番組
- 7 自治会・町内会の会合やニュース（回覧板含む）
- 8 新聞
- 9 ラジオ・テレビ（市広報番組以外）
- 10 インターネット（京都市以外が運営するホームページ、ＳＮＳなど）
- 11 知り合いからの口コミ情報、知人が発信するＳＮＳ
- 12 その他（ ）
- 13 見聞きしたものはない

■ 問 1 6 【継続】

京都市では、市民の皆さんと共に、知恵と能力を結集して解決を考えていく「協働のまちづくり」の実現のため、多様な市民（個人、企業、NPO、各種団体、大学、寺社等）と行政が対等な立場で一緒に話し合い、考える「対話」の取組を推進しています。「対話」の取組について、京都市がこれから力を入れて進めるべきと思うことについて、次の中から当てはまるものを 3 つまでお選びください。

【選択肢】

- 1 市民が「協働のまちづくり」や「対話」について学ぶことができる機会を増やす（市民講座、子ども・若者向けの学びの場など）
- 2 市政やまちづくりについて、多様な市民が交流し、話し合える機会を増やす（まちづくりカフェ、交流会など）
- 3 市政やまちづくりについて、多様な市民が交流し、話し合える機会に市職員が積極的に参加する
- 4 市政やまちづくりについて、「対話」により多様な市民間の連携や市民と行政の連携を促進する能力を持った市職員を育成する
- 5 対話の取組を積極的に P R し、開催場所等を分かりやすく発信する
- 6 特に推進しなくてもよい
- 7 よく分からない

■ 問 1 7 【新規】

新型コロナウイルス感染症の流行前（令和元年度以前）と比較して、現在のあなたの「市政への参加の機会（オンラインによる参加含む）」について、変化はありましたか。次の中からあてはまるものをお選びください。

【選択肢】

- 1 増えた
- 2 やや増えた
- 3 変わらない
- 4 やや減った
- 5 減った

■ 問 1 8 【新規】

新型コロナウイルス感染症の流行前（令和元年度以前）と比較して、現在のあなたの「まちづくり活動への参加の機会（オンラインによる参加含む）」について、変化はありましたか。次の中からあてはまるものをお選びください。

【選択肢】

- 1 増えた
- 2 やや増えた
- 3 変わらない
- 4 やや減った
- 5 減った

1 計画の位置付け

都市理念（都市の理想像） 世界文化自由都市宣言 昭和53年（1978年）

京都市基本構想（グランドビジョン）
平成13年～令和7年（2001年～2025年）

京都市基本計画（第1期～第3期）
平成13年～令和7年
（2001年～2025年）

行財政
改革計画

京都市SDGs
未来都市計画
まち・ひと・しごと
創生総合戦略

新京都戦略
令和6年度～令和9年度
（2024年度～2027年度）

市民参加推進計画（第1期～第3期）
平成13年度～令和7年度（5年ごとに改定）
（2001年度～2025年度）

長期ビジョン（仮称）
令和8年～令和32年（2026年～2050年）

次期市民参加推進計画
令和8年度～令和12年度
（2026年度～2030年度）

次期市民参加推進計画策定に係る作業スケジュール

項目		作業内容		
		第3回会議（1/28）	2月	第4回会議（3/25）
第3期計画評価		- 各施策の評価に係る全体議論 - 追加の情報提供	追加の情報提供に対する意見出し（～2/28）	第3回会議、追加の意見を踏まえた評価の共有
アンケート		アンケート項目（案）の検討・議論		アンケート項目の確定
次期計画	現状と課題、社会情勢の変化	内容の検討・議論		第3回会議を踏まえた現状の課題等（案）の議論
	重視する視点のキーワード	内容の検討・議論（追加すべきキーワードの確認）	追加すべきキーワードの募集（～2/28）	第3回会議、追加キーワードを踏まえた重視する視点（案）の議論
	施策の整理	内容の検討・議論		第3回会議、重視する視点を踏まえた施策（案）の議論

提言書
及び
計画
の議論

2 現状と課題、社会情勢の変化

- ・「VUCA※」（物事の不確実性が高く、将来の予想が困難な状況）
※Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字
- ・ 人口減少社会の本格化、少子高齢化の進展、核家族化の進行による一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯の増加、都市部への人口集中、地域における担い手不足、地域コミュニティの活力低下
- ・ 価値観の多様化、ダイバーシティ（多様性）の進展、インクルージョン（包摂性）の重要性の高まり、格差・分断、SDGsの定着、公民連携の促進、デジタル化やDXの進展、AI技術の進化、働き方の変化、副業・兼業の拡大
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大期に地域活動の中止や縮小が余儀なくされるとともに、オンラインによる参加がアフターコロナにおいても一定定着するなど、市民参加を取り巻く環境の変化
- ・ 社会総がかりで社会課題の解決に取り組み、すべての人に「居場所」と「出番」のある社会を目指す「新しい公共」を推進

3 次期市民参加推進計画の重視する視点及び施策等の方向性の検討

【重視する視点のキーワード（例）】

支え・
支えられる

ウェルビー
イング

担い手・
次世代

多様性

交じる・
交ざり合う

ぬか床

社会
総がかり

対話

結節点

分断・
つながり

公共空間

「居場所」
と
「出番」

新しい公共

垣根を低
く・越境

きずな・コ
ミュニティ

協働

次期市民参加推進計画策定に当たっての考え方

3 次期市民参加推進計画の重視する視点及び施策等の方向性の検討

【第3期計画に掲げた施策を、行動段階で整理した場合】

行動段階	第3期計画の施策	
①きっかけ（知る）	施策1	到達を重視する情報発信
	施策4	市政参加の機会の充実
	施策9	まちづくりに取り組むきっかけづくり
②対話（深める）	施策2	信頼や学びにつながる「市民と職員との対話」の推進
	施策3	共創のための「多様な主体の対話」の推進
③行動（参加する）	施策5	誰もが参加しやすいデザイン
	施策6	協働の成果や手ごたえの共有
	施策7	次世代につながる市政参加
	施策11	地域コミュニティ活性化への支援
④挑戦（拡大する）	施策8	協働する市政分野の拡大と新たな挑戦
	施策10	SDGsを背景とした多様な主体の参加促進
	施策12	持続可能なまちづくりを支援する仕組み
	施策13	多様な主体の協働による社会課題解決への挑戦

○ 日時

令和6年12月21日（土）午後1時～午後5時

○ 会場

京都信用金庫 QUESTION

○ 内容

京都奏和高校の生徒たちが4月以降取り組んできた探究活動の成果発表及び展示、体験ブース

○ 来場者数

72名

（内訳）

一般来場者（大人）：27名（37.5%）

一般来場者（中学生以下）：9名（12.5%）

教育関係者：16名（22.2%）

保護者、家族：13名（18.1%）

関係企業・団体：5名（6.9%）

高校生：2名（2.8%）



京都奏和高校「Make you smile 探究成果発表交流会」の開催結果

○ 参加者の感想

- ・ 学校外に出ていろんな人と関わるきっかけにもなるし、当日までの準備を通じていろんな経験ができたと思います。
- ・ 来場者が多く、人が沢山いる印象でした。もう少しスペースの確保や、ゆっくり出来る場所があればよかったかと思っています。
- ・ 生徒たちの頑張る姿に勇気をもらえました！
- ・ 生徒個人のバックグラウンドにあるものが反映されていて、何をすれば良いのか試行錯誤された結果の催しだったと思います。しっかり目を見て説明してくださって素晴らしいなと感じました。



○ アンケート

2月6日（木）開催のビジテックDAY（高校生自身が企画する、ビジテックⅡ・Ⅲの校内発表会）後に実施

1 開催概要

○ 日 時

令和6年12月26日（木） 19時～20時45分

○ 会 場

京都信用金庫QUESTION

○ 内 容

- ・ インプットスピーチ（乾座長）
- ・ 自己紹介、アイスブレイク（キャラっこゲーム）
- ・ 取組発表（まちづくりに取組む学生4名、市民公募委員2名）
- ・ テーブルトーク
- ・ フリー交流

○ 参加者

31名

（うち大学生8名、市民公募委員（大学生以外）：5名）



みんなで作る京都交流会の開催結果



みんなで作る京都交流会の開催結果

興味・関心の種をまく

同志社大 学生団体 edunka Mon

みんながやっつけたい! → 自己分析

外組 start!

カタチによろ!

学生が社会活動を通い 自分に合うもの

地域益 × 学生

地域活性化

子どもの遊び

地域とつながり模索中!

事例

おじいちゃん

交流タイム

第二部

みんなの声

今日参加してあげてのご感想をどうぞ!!

京都市の職員さんにも参加してもらった

いろんな方と話せるのもいい

グーッと見えてくる

学生さんの活動が日本一あると思う。これ交流で刺激を得られるのでいいですね。

途中参加していい。みんなが話しているのを見て、私も参加したい!

市民公募委員として、学生としても学びの多い一日でした! お疲れさまでした。

市民の生の声、民間企業などとの連携も大切ですね。

お疲れさまでした。交流タイム、ありがとうございました。

自由な時間、楽しかったです。交流タイム、ありがとうございました。

テーブルトーク 意見交換タイム

7474

今の学生さん (7474)

地域益って、昔ね...

おじいちゃん、おばあちゃん、学生さん、まちづくり...

2 アンケート結果（回答17名）

Q1 交流会の時期

「特に問題ない」と回答：88.2%

Q2 交流会の内容に対するご意見

- ・ 参加者同士で話がたくさんできて、学びになりました。
- ・ 他学生と取り組みについても勉強させていただいたので今後の活動でも活かしていきたいと思います。
- ・ 多様な方と交流ができて楽しかったです！
- ・ 個人的には市の職員の方と現場のホッペを話し合えて良かったです。
- ・ 適度な時間で交流できてよかった。
- ・ 今回の二倍ほどの時間がほしい。
- ・ 年に数回あればいいな！と思います。
- ・ 乾先生のお話、全市民公募委員がきけるといいな

Q3 現在参画しているまちづくり活動・市政参加の取組

「参画している」と回答：81.3%

例）町内会、区民ふれあいまつり、子どもの読書活動、

自殺総合対策、男女共同参画、空き家調査、教育委員 など

みんなでつくる京都交流会の開催結果

Q4 まちづくり活動・市政参加の取組に関する情報の入手方法

市のチラシ、京都市情報館、委員会からの案内、インターネット、HP、掲示板、知人から など

Q5 まちづくり活動に対する関心度の変化（交流会の前後比較）

「高い」・「やや高い」と回答：（交流会前）76.5% → （交流会後）100%

Q6 まちづくり活動への参加意欲（交流会の前後比較）

「参加したい」・「やや参加したい」と回答：（交流会前）76.5% → （交流会後）94.1%

Q7 市政参加に対する関心度の変化（交流会の前後比較）

「高い」・「やや高い」と回答：（交流会前）82.4% → （交流会後）100.0%

Q8 京都市の附属機関等の市民公募委員に応募したいか

「はい」と回答：69.2%

例）空き家対策、文化行政、教育委員 など

3 来年度の取組（サロン・交流会など）について

（今年度の取組の振返り）

（来年度の取組案）

- 市政参加の裾野拡大を目的に、今年度のような学生を対象とした「交流会」を実施
- 市民公募委員同士の交流・情報交換を目的に、昨年度までのような「市民公募委員サロン」を実施
- 次期計画の提言書に市民意見を取り込むため、提言書策定に合わせた「市民意見を聞く場」を設定
- 次期計画により多くの市民意見を取り入れるため、計画のパブコメに合わせ、大学等に出向き対話型パブコメを実施
- 多様な主体との対話や市政参加の方法をPRするために、市が実施する交流会等の場に出展 など

地域×株式会社セブン・イレブン・ジャパン×京都市の三者が連携

～北鍵屋公園にPark-UP施設（地域交流施設及びコンビニエンスストア）がオープン～

京都市のPark-UP事業を活用する第1号の公園として、地域（北鍵屋公園運営委員会（藤森学区））、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、京都市の三者が連携し、取組を進めてきた北鍵屋公園において、地域交流施設及びコンビニエンスストアが11月29日にオープンしました。

ユースシンポジウム 2024 つなぐ、つながる、ワカモノガトリ

～「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 京都～

こども家庭庁との共催で、「若者と地域」をテーマに、地域の中で活躍する若者一人ひとりに焦点を当て、若者たちへ会いに行くツアーや、若者たちによる活動を発信するブースを設け、参加者同士の対話や交流を通じ、若者や若者を支援・応援する団体等への理解を深める「ユースシンポジウム」を12月15日に開催しました。

QUESTIONタウンミーティング～未来の地域づくり～

京都信用金庫と連携して、地域の課題解決や活性化を目指し、有識者を交えたトークセッションや、参加者（大学生等）によるグループワークを通じて「未来の地域づくり」をテーマに意見交換を行う「QUESTIONタウンミーティング」を12月3日に開催しました。

その他、「**今参加できる情報**」についてはこちらからご確認ください ⇒



名 称	目 的	公 開	市民公募委員
京都市桃陵市営住宅団地再生事業検討委員会	桃陵市営住宅団地委再生事業の事業内容、事業手法及び事業者の選定等に関する事項について、市長の諮問に応じ、審議するため、京都市桃陵市営住宅団地再生事業検討委員会を設置する。	非公開	公募しない（特定の個人、企業、団体等に関する審査・意見聴取等を行うもので、特に専門性が高いもの）